



南房総の風し

体育の授業づくり「基本のキ」～単元計画を立てよう!～

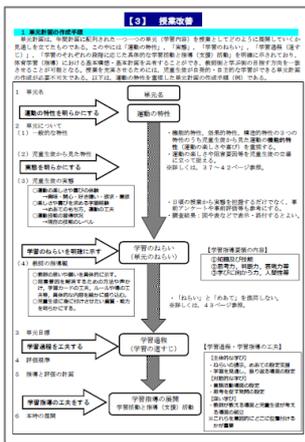
授業づくりの出発点は、「学習指導要領及び学習指導要領解説をよく読み、理解を深め、授業のイメージを膨らませ、指導を充実させること」に他なりません。これは全ての教科に当てはまります。日々の授業の中で子どもが、**何ができるようになったのか**という姿から、**指導の目的が達成されたのか**を点検し、**授業改善を繰り返していくことが大切です**。言い換えるならば、「ゴール（単元や1単位時間の終末）から手立てを考える」ということです。



今号では、体育の授業づくりにおける「単元計画の作成手順1～3（手順4・5については8月以降に発行予定）」について簡単に解説をします。児童生徒の「**わかって、できた!**」につながる体育指導の充実には「単元計画」が大きなポイントになります。ぜひ、ご一読ください。

☆単元計画の作成手順1～5

※令和4年度千葉県学校体育要覧 参照



単元計画の作成手順 5つ

- 1 運動の特性を明らかにする
- 2 実態を明らかにする
- 3 学習のねらいを明確に示す
- 4 学習過程を工夫する
- 5 学習指導の工夫をする



←以下、「令和4年度千葉県学校体育要覧」の

【3】授業改善 を参照しながらお読みください。

手順1 運動の特性を明らかにする

運動種目の特性を、一般的な**魅力**や**楽しさ**や**楽しみ方**、**運動の構造**など様々な立場から明らかにし、学習活動の基本的な方向付けをします。特に**機能的特性**は「**深い学び**」につながるので確実におさえましょう。

技能 構造的 特性

- 器械や器具を使って多様な遊び方を考えることができる
- 回転、跳躍、支持、懸垂、バランスなどの運動を行い、いろいろな技に挑戦し、できるようになる達成型の運動である
- 体全体を大きく、素早く、力強く動かす経験ができる
- 記録を高めるために自己の課題をもって学習することができる

機能的 特性 **楽しさ・魅力**

- 様々な動きに楽しく取り組み、基本的な動きや知識を身に付けたときに喜びを感じる
- 様々な動きに取り組んだり、自己の能力に適した技や発展技に挑戦したりして技を身に付けたときに楽しさや喜びを感じる

小学校 器械運動「一般的特性」の例



効果的 特性 **体力**

- 様々な動きを通して、運動感覚や巧緻性、調整力を身に付けることができる

児童生徒から見た特性

- 運動をどのように受け止めているのか
- 運動のどこに楽しさや喜びを感じているのか（阻害要因も）
- 運動の楽しさや喜びを味わうためにどのような学習ができるのか

手順2 児童生徒の実態を明らかにする

次に、児童生徒の学習の準備状態（レディネス）の把握をします。児童生徒が「体育が好きか嫌いか」といった視点のみならず、以下の例示を参考に**児童生徒の学びにつながる実態**を明らかにしておきましょう。



手順3 学習のねらい=ゴール（終末）を明確に示す ※単元目標を作成する

手順3では、「学習のねらい=ゴール」を明確に示します。基本的には学習指導要領「第2章 第2節 3 内容」から当該**単元の目標となる部分から、児童生徒の実態に即して作成**します。下記に、単元の目標の例示を示します。

【例】小学校 1・2年 B 器械・器具を使つての運動遊び

知識及び技能	<u>(1) マットを使った運動遊びの行い方を知るとともに、(2) いろいろな方向に転がったり、(3) 手で支えての体の保持や回転をしたりして遊ぶことができるようにする。</u>
思考力、判断力、表現力等	<u>(4) マットを使った簡単な運動遊びを工夫するとともに、(5) 考えたことを友達に伝えることができるようにする。</u>
学びに向かう力、人間性等	<u>(6) マットを使った運動遊びに進んで取り組み、(7) 順番やきまりを守り(8) 誰とでも仲良く運動をしたり、(9) 場の安全に気を付けたりすることができるようにする。</u>

上記に示した単元目標の例示に、下線を引いて(1)～(9)と番号をふりました。9つの下線の部分がこの単元における指導内容となり、**下線部をさらに一層明確にしたものが単元の評価規準**となります。

※評価規準を作成する

手順4の「学習過程を工夫」に向けて、まずは**単元の評価規準を作成**します。手順3の内容をもとに児童生徒の学びの姿としてより具体化した評価規準を作成していきます。各観点ともいくつかに分けて評価規準を想定しますが、下表の「①～④」といった数字は順序性を示すものではありません。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① マットを使った運動遊びの行い方について <u>言ったり、実際に動いてみたりしている。</u>	① 坂道やジグザグなどの複数のコースでいろいろな方向に転がることのできるような場を <u>選んでいる。</u>	① 動物の真似をして腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに <u>進んで取り組もうとしている。</u>
② マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊ぶことのできる。	② 胸で支えながら移動したり、逆さまになったりする動きを <u>選んでいる。</u>	② 順番やきまりを守り誰とでも仲良く運動遊びを <u>しようとしている。</u>
③ 手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりして遊ぶことのできる。	③ 友達のよい動きを見付けたり自分で考えたりしたことを友達に <u>伝えたり書き出したりしている。</u>	③ 場の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。
		④ 場の安全に <u>気を付けている。</u>

※学習指導案の作成では、下線部 のように文末を変えて記載します。（詳細は学校体育要覧）

この評価規準をもとに評価を行います。教師が指導したことや児童生徒の変容から行うことが原則です。指導内容として示したことや指導したこと以外は評価できません。

